



精神保健福祉家族会

仙台みどり会会報

創刊号 (通算 69号) 平成 31年 3月 2日発行 〒981-3204 仙台市泉区寺岡 1-20-16 黒川方 仙台みどり会事務局
電話・FAX 022-377-1966 家族会携帯 080-2812-4835 [9時~17時] ホームページ (準備中)



精神保健福祉家族会

仙台みどり会が発足しました

仙台みどり会会長 黒川 洋

□再生する家族会、発足式の開催・・・・・・・・・・・・・・・・

平成 30年 11月 30日、これから再スタートする家族会の発足式を仙台市民活動サポートセンターで開催しました。

会の名称は、「精神保健福祉家族会 仙台みどり会」と決まり、会則と役員が承認されました。これまで、NPO 法人みどり会の家族部会長だった私、黒川が会長に選出されました。皆さま、今後どうぞよろしくお願ひ申し上げ

げます。

これから私たちは、同じ悩みを共有する家族（ピア＝仲間）であることを活かして、家族会本来の活動である家族同士による学び合い、分かち合い、そして精神保健福祉の普及・啓発等の活動を行っていきたく考えています。

□見えにくい病気・それを支える家族・・・・・・・・・・・・・・・・

精神疾患は、目に見えにくい病気です。生きていく上で妨げになっている障害について、これまでなかなか理解が進まず、身体や知的障がいについて進められた福祉施策が、精神障がいの場合にいっこうに進まない時代が続きました。そのために、私たち全国の家族会は、国や行政に替わって作業所等を立ち上げ、運営に携わってきたのです。

精神障がいの学習は、まだ学校教育に取り入れられておらず^(*1)、普及・啓発も不十分です。ましてや、精神障がい者を支える家族についてその辛さや苦しみを理解する人は、更に少ないのが現状です。福祉サービスを提供する職員、行政等の支援者、精神科医も私たち家族には不十分に感じられます。

目 次

1~2ページ	精神保健福祉家族会 仙台みどり会が発足しました	会長 黒川 洋
2ページ	ごあいさつ	相談役 佐藤 わか子
2~6ページ	役員 5名より	黒瀧和子・後藤くらゑ・磯谷裕治・佐藤みつえ・伊藤竹海
6~8ページ	会員 3名より寄稿	Y・H(女性)、M・O(男性)、大内直子
9~10ページ	会員の皆さまへご連絡／宮家連・みんなねっと情報	
10ページ	「仙台みどり会懇談会」開催日程	

もちろんすべての支援者や医師がそうだと言う訳ではありません。しっかり向き合ってくださいる方々も少なからずいらっしゃいます。

私たちは、家族会の活動について周知を図

□家族の抱える悩み・・・・・・・・・・・・・・・・

家族の抱える悩みや辛さは深く悲しいものです。高齢や重複する疾病に加えメンタルの悩みを抱えている家族も少なくありません。

仙台みどり会の会員数は、まだ70余名です。精神疾患のうち統合失調症1つを考えても、100人に1人の発病率ですから、100万都市仙台だけでも1万人は病気を抱えているのです。うつや双極性障害、その他の神経症群を合わ

っていくことや、家族の抱える大変さを伝えていくことは精神障がいに関する大切な啓発活動の1つであると考えています。

せると、まさに厚労省の掲げる5大疾患中、通院者の最も多い疾患なのです。

より多くの家族に、仙台家族会を知っていただき、まずは学び合い、分かち合いの活動に加わっていただきたいと思います。

今後とも皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(*1) 学校教育における精神疾患の記載について：2018年10月29日、2022年から高校教科書に精神疾患の記述が復活するとの朗報が載った。(月刊みんなねっと2019、2月号)

佐藤わか子さんには
仙台みどり会相談役に就いていただきました

ごあいさつ

仙台みどり会の会員の皆様には、日頃から大変お世話になっております。心から感謝申し上げます。

私がNPO法人みどり会の理事長に就任して以来、本当に沢山の家族会の皆様にお支えいただきました。障害者福祉を取り巻く環境は、報酬の引き下げなど大変厳しい状況が予想されますが、精神障害当事者をはじめ、そのご家族が直面している様々な困難を思う時、諦めるわけにはいかないと感じております。

これまでの施設部会と家族部会は、それぞれ

仙台みどり会相談役 佐藤 わか子

れ障害福祉サービス事業所と仙台みどり会に分離しましたが、各々が目標に向かって懸命に活動していくことは変わりありません。

「みんな違ってみんないい！」

誰もが自分らしく、生き生きと暮らせる仙台みどり会を目指して、心を一つに、同じゴールに向かい頑張って進んでいきたいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

発足式で承認をいただいた役員（世話役、会計）の
皆さんより、それぞれの思いや考えを寄せていただきました



飛躍する家族会

仙台みどり会世話役 黒瀧 和子

平成元年、仙台市は旧仙台市も含めた2市2町が合併して政令都市になることに伴って、

旧仙台市地域家族会「杜の会」をはじめ4家族会も合併し、仙台市精神障害者家族会みど

り会が誕生しました。

この年、息子は障害を発症してしまいました。無知な私は、周囲の理解ある環境にあり、仙台市のデイケア（現在のはあとぽーとデイケア）を紹介され、通所することになり私は保護者会に入りました。

杜の会の役員の方が、「これからはみどり会の時代です。入会してみどり会を大きくしてください。」と、声高らかにその時の状況が思い出されます。

その頃の仙台は資源が貧しく、精神障がい者の作業所は三居沢の1カ所だけ。徐々に福祉施設はでき始めましたが、精神障がい者には差別や偏見が強く、行政や皆様方の協力があり、グループホーム2ヶ所と工房2ヶ所を立ち上げることができました。

平成15年、みどり会はNPO法人を取得、順調に活動してきましたが東日本大震災で工房

若林が津波で流出、職員の熱意と当事者からの強い要望で再建することができました。家族や支援してくださる方々の絆が強く感じられました。

昨年末、みどり会は施設と家族会を分離して、家族会は「仙台みどり会」と名称を改めました。障がい者は、年々増している現状です。

私は、宮城県精神障がい者家族会連合会「宮家連」と、「仙台みどり会」と泉区「いずみ会」の3つの家族会で活動し、苦悩している方々と共に知識を得、癒しの場、心のより所の場作りに励んでおります。

会に参加し、穏やかな気持ちになられることを願っております。

どうぞ仙台みどり会の発展を願って、私たちといっしょに活動していただけますようお願い申し上げます。

「家族による家族学習会」について

仙台みどり会世話役 磯谷裕治

（1）仙台市健康福祉局の構想

仙台市は平成28～29年度にかけて精神保健福祉審議会において、「精神障害者とその家族を支える支援のあり方について」検討を行ってきました。

精神障害は長期にわたる治療と生活支援の双方が必要となり、高齢化や核家族化が進む中では家族に対する生活全般に及ぶケアも求められるものだが、当事者及び家族に対する首尾一貫した支援を提供する必要という問題意識から審議してきたものです。（H30年4月24日仙台市健康福祉局障害者支援課の文書より一部抜粋）

私たちは、「仙台みどり会」の前身「NPO法人みどり会」時代から、審議会及び作業部会に審議委員として役員を送ってきました。

そして審議会は、以下の6つの視点から課題を整理して、事業として備えるべき内容を明らかにしました。

■精神障害者とその家族を支える支援のあり方について

①家族の相談の場について

家族が気兼ねなく相談ができ、今後の見通しや手立てが具体的に得られること。

②家族の休息の場について

精神障害当事者と家族が物理的に離れられ、家族が休息できる場が必要。利用に際して、精神障害当事者及び家族双方が、関わり方などを見直す機会となること。

③家族へのアウトリーチサービスについて

支援者が生活の場に赴き、家庭状況を把握した上で、情報提供やサービス調整を行うこと。

④情報提供・周知について

精神障害当事者への対応に精一杯で見通しが持てない家族が、どこに訪れても支援者から、状況や段階に即した情報提供を得られること。

⑤家族や精神障害当事者の力を活用すること

について

相談や休息等において、サービス提供者として家族や精神障害当事者を位置付けること。

⑥ケアマネジメントについて

精神障害当事者とその家族を一貫性をもって包括的に支援していくために、医療・保健・福祉などの他機関によるケアマネジメントを実施すること。

上記の視点から、「精神障害者家族支援事業」として4つのプログラムを整備し、平成30年度はこのうちの1について実施する。

1 ピア家族相談員育成

『家族や精神障害当事者の力の活用』に該当。

この計画が、仙精連に委託事業とされた。平成30年6月1日～

(2)「家族による家族学習会」って、どんなもの？

そして(1)の第一ステップとして、「家族による家族学習会」が実施され、仙台みどり会の役員5人を中心に10人が講習を開始しました。

●「家族による家族学習会」とは、「認定NPO法人 地域精神保健福祉機構・コンボ」の編集したテキストを使って、「公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）」が実施する「精神障がい者の家族ピア教育プログラム」で、エビデンスに基づく共助プログラムです。

●精神疾患を患った人の家族を「参加者」に迎え、同じ立場の家族が「担当者」としてチームで運営・進行する、10～15人程度の小グループで行う体系的な家族ピア教育プログラムです。

具体的には、1回3時間、1コース5回で行われます。

●内容は、保健所や病院で行われている「家族教室」と似ていますが、当事者の看病に役立てる目的の家族心理教育とは異なり、家族自身の力を増す為の教育プログラムです。

●私たち家族だけが持つ①「体験的知識」とテキストによる②「医療と福祉の専門的知識」

を組み合わせた学習スタイルです。同じ立場の人の共助による、エンパワメントが期待できます。

●難しく長い闘病生活を続けるためには②の力・知識が必要です。一方で、疲れ果て悩み深く、孤独になり、生きる意味が見えなくなった時には、同じ苦しみに共感し聴いてくれる体験者が救いとなります。②生きていく方法の勉強と①生きていく意味の実感が、私たちには必要です。

(3) 現在、動き出している「家族学習会」

●「家族による家族学習会」はすでに動きだしています。

2018年8月1日現在、日本全国25都道府県で実施され、2500名近くの家族が参加経験しています。（「みんなねっと」による集計）

●家族学習会を実施するには、初めに家族学習会セミナーを実施する必要があります。詳しくは「みんなねっと」のホームページを参照してください。

現在、家族学習会の運営を学ぶために、みどり会役員が中心となって、昨年から全5回の家族学習会を受講中です。

(4) 現在、みどり会が毎月行っている「懇談会」と何が違うのか？

●医療と福祉の勉強と、話し合いの2本柱であることは変わりません。

●ただ、全国共通のテキストで学び、標準的な知識を身に着けることができます。

●担当者養成研修会を修了すれば、みどり会自身が運営主体として家族学習会を行うだけでなく、担当者養成研修会を開いて、埼玉や千葉、岡山、福岡の家族会のように、次の担当者を養成できます。

●「仙台みどり会」の懇談会は、単会の行う1回ずつの催し物だが、「家族による家族学習会」は仙台市の福祉構想につながる1ステップともなります。

●私たちは、多くの障害者家族がつながりもなく、情報も少ないまま、孤立していることを知っています。

統計上の数字でいえば、統合失調症の発症率は100人に1人、人口100万市民の仙台市には、1万人の当事者と1万家族が居る筈です。さらに、うつ病など他の病気の家族も含めれば、数万の患者家族がいます。しかし、家族会「仙台みどり会」の会員数は僅かに70名です。私たちは、広く患者家族に私たちの会への参加を呼びかけます。その時に「家族による家族学習会」の担当者として、「仙台みどり会」が、孤立して苦しむ患者家族に講習会を呼びかけることは、大きな意義があるものと信じます。

そして、また、私たち「仙台みどり会」は、役員とお手伝いを募集します。残念ながら、求められる仕事に対して、役員の余裕はなくなっています。懇談会の時のお茶出しや、会報の製本作業(ホッチキス止め等)のお手伝いを求めています。どうぞ、会員の皆さま、希望を求める家族の皆さま、手を挙げてください。私たちが求めるものは、私たち自身が力を尽くして得る時代なのです。

新たな名称でスタートする家族会

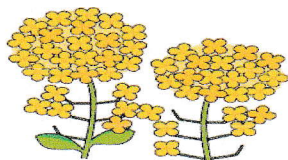
仙台みどり会世話役 後藤 くらゑ

仙台市に「精神障害者家族会みどり会」の前身となる「杜の会」と称し、昭和52年に発足、平成元年に仙台市が政令指定都市と変ると同時に「みどり会」と改名、平成18年までの間に当事者の受け皿となる4施設(作業所とグループホームの各2カ所)の運営も担い、その間、国の施策が頻繁に変わる福祉対策に職員の負担を重くし、山あり谷ありの苦難な路を何とか乗り越えてきました。東日本大震災の津波で、広範囲に根こそぎ流された地域に溶け込んでいた荒浜にあった「みどり工房若林」、利用者の皆さん方は職員の俊敏な誘導で職員共に全員無事だったことが何よりのこと、会員はじめ多大なるご寄付で再建した場所で活動を行っております。

時代の流れに沿い、昨年の11月30日をもって施設部会における施設運営は職員に委ね、家族部会は家族のみの独立態勢で活動することとなりました。

名称を「精神保健福祉家族会仙台みどり会」として再スタートし、これまで同様に月1回の懇談会がより深みのある活動にしていきたいと思えます。共有する家族どうしだからこそ、分かり合える利点を活用し、家族による家族支援、時には同行、自宅訪問など、高齢家族には特に不可欠な要素であるのでは！

開かれた地域社会形成に啓発は欠かせません。寄り添うことを基本に、皆さんで魅力ある「仙台みどり会」にしましょう。



ごあいさつ

仙台みどり会世話役 佐藤 みつえ

もうすぐそこまで春が来ています。仙台みどり会も新しく名称が変わり、役員共々新たな気持ちでスタートいたしました。

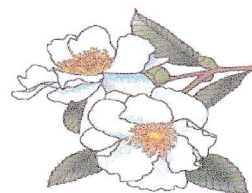
私はお世話役になって、5ヶ月しか経っていないまだ未熟者ですが、先輩(年配ではありません)の方々からのご指導をいただきなが

ら、少しずつ仙台みどり会の事も理解しつつ、勉強しながら、かつ会員の皆様と活気ある明るい会にしたいと思います。

私の心の支えにもなる詩をご紹介します。

あなたが存在することでたった一人でも
誰かの心が温かくなったり
あるいは頼りになると安心してくれる
ならばそれこそが人間の存在価値
なのではないでしょうか。

—瀬戸内寂靜—



自慢話は一文の得にもならないし、
その場の雰囲気悪くする。

それよりも相手の話を聞く方がずっといい。 —ビートたけし—

ごあいさつ

会計 伊藤竹海

この度、仙台みどり会の役員として会計等を担当させていただくこととなりました。また、当事者である立場から、一当事者として感じていることを少しご意見させていただくなど、微力ながらお役に立てるよう関わっていきたいと思います。

私は、このように役割をいただけることはありがたいことです。

私にとって何らかの社会的役割をもつという事は、生きる意味となります。精神的な

ものにも大きく影響します。他の当事者もそう感じることもあるかも知れません。家族会に求められるものの一つとして大きなものに、様々な理由により制度を利用出来ないなどで、孤立及び家族だけで悩んでいる方々も含め、ともに支え合う共助的役割があると思います。

あまり制度や専門職の意向にとらわれず、家族である経験を活かした柔軟な活動を期待しています。

寄稿：会員3名の皆さまから体験や思いを寄せていただきました

息子とこれからも

仙台みどり会会員 Y・Hさん（女性）

息子がリストカットをして、私があわてて病院へ駆け込んだのは高校卒業の後でした。

うつ病と診断され、すぐ直るだろうと思っていましたが、なかなか治らず、親戚からは

いつまでそうやっているのか、早く働かないと、と言われ、私もあせっていました。いろんなことが楽しいはずの20代、もったいないから早く治そうと言いつけました。

家の中に引きこもりたくないというので、バイクを買ってやり、本屋、バイクショップなど、近場を回るようになったことは、まあ、よかったかなと思います。

でも、なかなか病気は良ならず、本人も悩んでいました。いくつか病院を変えて、30歳位の時、今の病院で統合失調症と診断され、ショックでしたが、本人もいたので平静を装っていました。家で、息子が大変な病気になってしまったことを言うと、本人は“病名が分かってよかった。これで治療や薬で良くなっていくのではないかと、ホッとしています。それを聞いて、さぞかし苦しくて大変だったろうと、親として分かったつもりでも、全く分かっていなかったことで申し訳なく思いました。

今の先生は、息子の事を良く考えてくれ、信頼しています。やりたいことを気力が湧かず、一つひとつ諦めていったと聞き、これも病気のせいなのでしょう、どうしてあげてよいか考えてしまいます。

それでも家ではパソコンは必需品で、趣味としてカメラが好きで、我が家の猫たちを撮ったりと、お金も結構かかるので作業所で少しでも働いてお金を得ることを考えるようになり、最近、作業所へ通って、近くのコミュニティセンターで掃除をさせてもらい、少しお金をいただくようになりました。これで自信がつくといいのですが。

友達もできて、いろんな話で盛り上がり、



入会半年

娘が鬱病を発症、昨春から自宅に帰ってきて療養中です。気付くのが遅れ、あわてて本を読んだりネット検索をしたり、また、相談会や家族会などを調べました。鬱病中心の会は見つけれなかったのですが、幸いに活動歴が長く広範に活動されている仙台みどり会を知り、昨夏に入会させていただきました。

娘は慢性的な疲労感から会話自体を避ける

楽しくなってきたようで何よりです。

お医者さんにも、お金もいいけど居場所ができて良かったと喜んでくれたと、息子が嬉しそうに教えてくれ、いい先生に出会えてよかったねと言いました。

息子は入院をしたことはありません。早く病院に行ったのが良かったのか、うつ病の薬でも良かったのか分かりません。

ただ口が渴いて、水を飲みすぎます。先生にも水中毒を注意されるのですが、困ったものです。

禁煙は何回かしていますが、今はまた吸っています。ストレスがかかったとき落ち着くようなので、私もしょうがないと思っています。

100人に1人の発症というこの病気は、ありふれているとはいえ、若くして将来の道を変更せざるを得ない人も多く、かわいそうです。

一昔前は薬もなく大変でしたが、今は効く薬もできました。でも医学はこんなに進んでいるのに、どうして治るところまで来ないのか、そうなったら人も社会も救われると思います。

昨年1月の泉区役所の集まりに、初めて勇気を出して出席しました。みんなつらい体験を涙ながらに語る人がいて、しみりして帰ろうとしていた時、小柄な女性が元気な声で“みどり会”のことを伝えていました。こんな明るい人がいるなんてと驚き、この会を見たいと思ったのが入会のきっかけです。後藤さん、ありがとうございました。

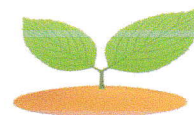
仙台みどり会会員 M.O. (男性)

など、いまだに何をどうしてよいのか判らないままですが、仙台みどり会の皆さんのお話をいろいろ聞かせていただき大切なことに気が付きました。焦らず、あわてず、暖かく、これしかないな、と思っています。とはいえ、時々はそうもいかない自分が居て・・・でも粘り強く、包み込んで、いつも愛、そんな日々がまだまだ続くのでしょう。

医療の力を信じつつ、みなさんの力を私に、
私の力をみなさんに、そんな家族会に出会え

た一年でした。

娘の入院



仙台みどり会会員 大内 直子

娘が4度目の入院をしたのは、昨年秋でした。

夏ごろから、親に対する暴言がどんどんひどくなり、いろいろなことにケチをつけ始め、怒りがたまると、ついに暴力までふるうようになりました。

手に負えない暴力が続いたある日、突然、棒で襲いかかってきたので、すぐ警察を呼び措置入院となりました。

入院してからは、なかなか面会に行く気になれず、必要に迫られて会ったときも、娘は視線を合わせず、用件だけ言うと、逃げるように部屋を出ていきました。もう本当に信頼関係がなくなったんだと落ち込みました。私は、退院後は娘が家に戻ってくることは絶対無理と思い、病院にもそのことを伝えました。

入院して二カ月が過ぎたころ、病院で退院後についての会議が開かれました。

退院後はどうするかという話になり、私は「退院後は、家は無理です。」と言うと、先生に「厳しいことを言うようだけれど、お母さん、あなたは逃げてるね。放置してるね。娘さんを良くするのは、お母さんしかいないんだよ。他に誰も良くしようとする人なんていませんよ。私たち医者は薬を出すしかできないんですよ。入院してくれば、そのたび薬をどんどん増やして、内臓もどんどんボロボロになっていくだけです。」と言われ、私はその言葉に衝撃を受けて、頭ではなるほどその通りだと思うのですが、しばらく混乱が続き、なかなか受け入れられませんでした。しかし娘は他に行くあてもなく、結局、家に戻ってくることになりました。

また暴力を振るわれたらどうしようと言う

不安でいっぱいでしたが、ある人から「信頼関係を取り戻すには、いっしょに何かをすること。散歩でもいいし、お茶を呑むのでもいいし。それから、本人の言うことや、やっていることを否定しないこと、むしろ関心を持って一緒にやってみようかな位の感じで。」というアドバイスをいただきました。」

娘は宗教の儀式に凝っていて、「私は巫女なんだよ。そういう仕事をしているの。」(もちろん妄想の世界ですが。)家の中のあちこちにコップに入れた水を並べて、しょっちゅう拝んだり、祝詞やお経をあげたり、電話であちらの世界と交信している様子です。

私は、今まではそんな娘を嘆かわしく思っていました。気持ちや発想をガラッと変えて受け入れることにしました。

その後、娘は退院して薬の調整がうまくいったこともあると思いますが、驚くほど穏やかになり、関係がうまくいくようになりました。

今は、昼は一緒に買い物や散歩に出かけ、夜は主人と三人で娘の部屋でお茶を飲むようにしています。娘はそれが楽しいらしく、昼間、自分で出かけておいしいお菓子を買ってきて、夜になると「二階でお茶する?」と、声をかけてきます。笑顔も出るようになりました。ずっとなかった笑顔が。

今振り返って思うと、たぶん娘は一人ぼっちで誰にも理解されずに寂しかったのだと思います。まだまだ妄想でいっぱいですが、本人が幸せならそれでいいと思えるようになりました。

まだこれから先どうなるか分かりませんが、寄り添う気持ちを忘れずに、温かく見守っていきたいと思います。

仙台みどり会会員の皆さまへご連絡

□会費についてのお願い……平成31年度から、「郵便振込」になります

平成31年度からの会費について、郵便振込で納入をお願いいたします。

これまで、役員が会費をお預かりすることがありましたが、ミスを防止するため、役員の負担をなくすため、一律、郵便振込とさせていただきます。どうぞご協力をお願いいたします。

○4月のお手紙（総会ご案内）に、振込用紙を同封いたします。

○これまでの振込先「NPO 法人みどり会」の郵便口座は廃止となります。使用しないようお願いいたします。

□総会の日程が決まりました

○と き 平成31年5月9日（木） 10時30分～12時

○ところ 仙台市福祉プラザ 11階 第1研修室

○内 容 精神保健福祉家族会仙台みどり会 第1回総会

※総会に併せて、研修会を開催します/どうぞ各自、昼食をご準備ください

仙台みどり会研修会「障害理解サポーター養成研修」

～障がいについて理解を深めたい、暮らしや地域づくりのためにできることは？～

○と き 平成31年5月9日（木） 午後1時～3時 （総会と同会場にて）

○参加費 無料

宮家連・みんなねっと情報



□精神障がい者に航空運賃割引が適用に

全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）では、他障害と同等の交通運賃割引を求めてきましたが、昨秋、厚労省担当課で国土交通省と協議のうえ、航空運賃の割引が適用となりました。

JAL、ANAともに、精神保健福祉手帳の所持者に対して、他障害と同等に、本人と介護者1名の割引を行う。1種2種の区別は行わない、等級も問わないという内容になっています。

□宮城県精神科医療体制の拡充について

緊急な医療を必要とする精神障がい者について、平成31年1月16日より県立精神医療センターが深夜早朝の時間帯に対応することにより、民間医療機関と連携した24時間365日の医療体制を整備しました。（県精神保健福祉審議会報告）

□宮家連（宮城県精神障がい者家族会連合会）における活動

宮家連の活動のうち、県への要望事項については、これまでも上記に関する要望のほかにも、グループホームの増設、学校教育における精神障がい者への理解促進、ピアサポート体制の整備、家族会活動への支援充実など、さまざまな要望を県へ提出してきました。私たちの求めるものはまだまだあります。今後も、必要な要望を訴えていきます。（文責 宮家連副会長 黒川）

□宮家連・みんなねっと共催

平成 31 年度 北海道・東北ブロック家族会研修会のご案内 準備中です

○と き 平成 31 年 9 月 24 日 (火) 10 時～ ※ 詳細は後にご案内いたします

○ところ 仙台市シルバーセンター交流ホール

○開催テーマ 「時代はかわる、家族はかわる」

～これからの地域ケアといっしょに学べる家族会活動～

基調講演「これからの地域医療と福祉への期待」

～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

東北福祉大学教授・せんだんホスピタル精神科医 西尾 雅明 先生



シンポジウム「これからの地域社会を考える」

シンポジスト 宮城大学看護学群 精神看護学領域 小松 容子 氏

地域支援センターぱれっとよしおか 西村 真希 氏

多賀城市家族会さざんか会 関本 則子 氏

司 会 社会福祉法人ゆうゆう舎理事長 釣舟 晴一 氏

～ これからの「仙台みどり会懇談会」開催の予定 ～

精神障がいの当事者を抱える家族同士が気軽に参加して
悩みを語り合い、体験を出し合って学習し、お互いに元気をもらっています。
まだ会員でない方も、どうぞご遠慮なくお出かけ下さい。

平成 31 年 2 月版

2月10日	日曜日	午前10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
3月31日	日曜日	午前10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
4月21日	日曜日	午前10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
5月12日	日曜日	午前10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
6月23日	日曜日	午前10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室

*会場のお間違いがないよう、お気をつけてください。

□仙台みどり会懇談会の後、「お昼の会」があります。ご利用ください。

・時 間：懇談会終了後～14時。ゆっくり息抜きをしていただくのが目的です。

・参加は自由。弁当を食べたり、お茶のみ、雑談、個別の相談もどうぞ。

□会の運営は、皆さまからの会費（年間 4,000 円）で成り立っています。ご協力をお願いいたします。 ※会費には県の上部団体「宮家連」の会費 1,500 円が含まれています。



〒981-3204 仙台市泉区寺岡1-20-16 黒川方

精神保健福祉家族会 仙台みどり会事務局

電 話・ファックス 022-377-1966 ホームページ（準備中）

家族会専用電話（会員関係の連絡先はこちら）080-2812-4835（受付時間 9時～17時）